

献辞

河田潤一先生、小櫻純先生、吉本健一先生は、2019年3月末をもって神戸学院大学をご定年で退職されました。一度に三人もの先生に「卒業」されてしまい、本法学部としては大変な痛手ですが、制度ゆえ致し方ありません。

三先生の履歴、業績につきましては、別途掲載されますので、そちらに譲ることとし、それぞれの先生方のエピソードを述べることで、ご「卒業」のお祝いの言葉とさせていただきます。

まず、河田先生はわが国における政治学分野での代表的な研究者であります。それでも、アメリカ大統領選挙でトランプ氏が選ばれるとは予想していなかったとのことで、当時の政治学の講義でクリントン大統領誕生の前提で用意していた講義草稿を急遽改めた旨、お話しくださいました。分野が異なることから専門的な話はできませんでしたが、大学から帰る際同じバスになったことから、「軽く飲みますか」ということになり三宮で「専門外」の話で盛り上がりました。その時、結婚を機に芸能界を引退することになった女優さんのことで意気投合したのは忘れられない出来事でした（お互い、「残念で仕方ない」とぼやいておりました）。先生とこんなところに共通項があったことに喜びを覚えたものでした（それにしても先生の守備範囲、ストライクゾーンは広い！）。

次に、小櫻先生ですが、先生は「企業年金法」の研究の第一人者であります。そんな先生が、「学部長が、家族の反発で『鮎ずし』を味わえない、と言っている」ということで、彦根からわざわざ「鮎ずし」をご用意いただいたことは忘れられません。先生はそれを、近所のスーパーで手に入れたということですが、いやいやなかなかの「上物」でした。美味しかったです。本当にありがとうございました。

最後に、吉本先生は、会社法分野での代表的な研究者のお一人であら

れます。いつも冷静であられ、紳士として振舞われておられます。そんな先生が、ある日、顔などに絆創膏をいくつも貼られて来られました。「何事か?」と、お話を伺うと、酔って転倒したとのことでした。先生にいつもとは違う、こんな一面がおありとは!? 一気に、ハードルが下がりました。研究面では大先生でありますが、人としては非常に親しみやすい先生であることがわかった次第です。

以上、五十音順に三先生のエピソードを紹介させていただきました。失礼な点など、何卒ご寛恕ください。

改めて、三先生のこれまでのご尽力とご貢献に心より感謝と敬意を表しますとともに、今後の先生方のご健勝とますますのご活躍を祈念し、謹んで本号を献呈させていただきます。

2021年3月

法学部長 田中裕明